

# 「知っている」と「理解する」って！

2月22日、ニュージーランド最大の都市クライストチャーチで、M6.3の強い地震が発生しました。連日テレビで映し出される光景には心が痛むばかりです。

これは決して他人事ではないのです。1995年1月17日に、我々も兵庫県南部地震により阪神・淡路大震災と言う未曾有の災害による、全く経験したことのない被害を受けたのは紛れもない事実であることを忘れていません。阪神・淡路大震災から16年が経ち「防災」という言葉がメジャーになってきています。しかし、まだまだ他人事であり、人任せになっているのも事実です。

なぜ人任せになってしまうのでしょうか。これが現代社会での「防災における課題」なのです。一つの災害が発生すると、テレビ、新聞、インターネットは競って毎日災害現場の状況を報告する。ここで生まれてくるのが『情報の氾濫』です。

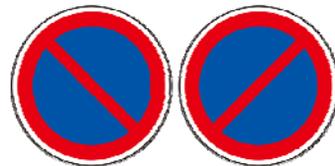


災害が発生すると、メディアからは大量の情報が流れます。最初は「大変だ」「辛い」「悲しい」「可哀想だ」と感情的になり涙を流します。しかし、大量の情報は

次第に弊害を起し始め、災害情報を視聴している人たちには、見慣れた光景となっていきます。危険に対する麻痺状態となり、いつの間にかインパクトがなくなってしまう。「悲しいことだ」「悲惨なことだ」「大変だ」ということは感じるが、やがてメディアによって見せられた災害情報の様子が、自分の受けるであろう災害の上限となってくるのです。その意識により、身近で災害が発生しても目の前の事実（災害・被害）に対して、何が起っているのか把握せず、また認識できずに個々の危機に対する非常スイッチが入らないということが発生してしまうのです。災害が迫っていても逃げることもせず、「たぶん大丈夫だろう」「私のところにはやっこないだろう」と思い避難をしようとしません。それは何故か？災害の様子はメディアで観たので「知っている」が、災害自体を「理解していない」ということになります。災害に備えなければ大きな被害が発生することは「知っている」。さらに家具の転倒防止、保存食、家電製品の固定対策等もやった方が安全なことは「知っている」。地震保険に継続して加入すると何かの時に役立つことも「知っている」。しかし実行に移せず「備えられない！」。それはなぜか？備えておくと、何がどう変わるのか理解できていないことです。だから「備えない」ということなのです。

「知っている」と「理解している」とは違うのです！何が起るのか？どんな影響があるのか？基本的なことを理解していないのです。言葉遊びのような「知っている」と「理解している」の違いをここで確認します。

「駐車禁止のマーク」を思い出してください。真ん中の斜めの線は「右上から左下へ？」「左上から右下へ？」さて、どちらが正解でしょうか？何となくマークは知っているはずですが、正解は「左上から右下へ」



この駐車禁止マークは、英語の「NO」を元に「N」と「O」を組み合わせたものとして作られました。この理由を聞いたあなたは、もう二度と間違えることは無いでしょう。これが「理解した」ということです。

理解していなければ、災害などのいざという時に「わからなくなる」。その反面、理解していれば、迷わず命は助かる方向に進んで行くことができるのです。その為には、一歩踏み出し「理解する」ことは「あなた次第」となるのです。

ここからは理解して頂くために、少し厳しい（辛い）お話をしなければなりません。ご理解ください。

なぜ、家具の転倒防止をしなければならないのでしょうか？それは地震発生時に、家具が転倒し家具の下敷きになって逃げられないからということはお存じですよね。話はこれで終わりではないのです。ここからお伝えすることが「理解する」ということなのです。

メディアで放送された地域の人や救助隊に救出され助かった映像はほんの一部です。家具が転倒し下敷きになり、逃げられなくて多くの人が亡くなったことから目をそらしてはいけません。また、逃げられずに火が迫り、救助する人に「私は放っておいて逃げて！」と叫んだ人もいます。逃げられずに埋もれてしまい、やっと掘り出されても本人かどうかも判らない状態になっていたのです。このようにならないために理解していると、転倒防止等の「備え」の必要性は明らかです。



同じことが津波災害でも言えます。日本では特にメディアで放送されない隠された事実により、日本人は避難勧告が発令されても避難しない傾向があります。

津波の恐ろしさはメディアで放送される「波の大きさや流される人や家屋」ではなく、本来は津波が終わったあとの惨状なのです。人が道路の片隅に大量のゴミと一緒に、ボロボロになった亡骸となって山積みとなっているのです。このような惨状映像は日本では放送されません。本当の恐ろしさである、目を覆う事実は放送における規制によりメディアで放送されないので、だから、理解できずに避難しない人が多くなってしまいます。これは過去の災害で亡くなった人を軽視したり愚弄しているではありません。過去の教訓から学ばなければならない、決して隠してはいけない事実なのです。《次号に続く》